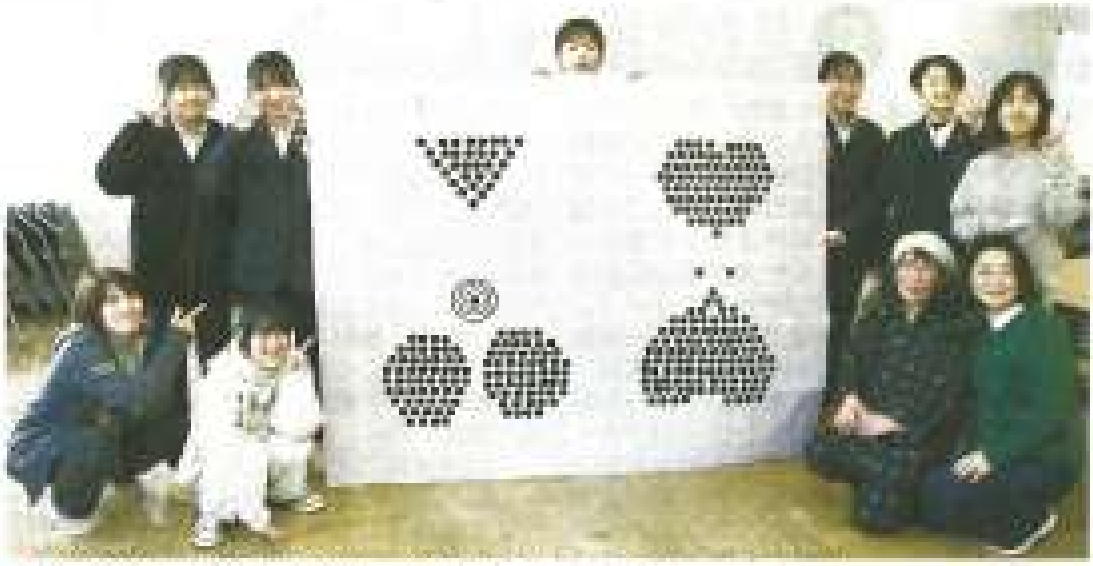

△長峰中3年生が来館者らと一緒に完成させたエコキャップアート

国宝土偶2体デザイン

長峰中3年エコキャップアート

茅野市長峰中学校の3年生が6日、同市中央公民館で来館者らとエコキャップアート作りをした。生徒をはじめ保護者、住民ら約15人が交流しながら取り組み、白地に黒のキャップで市内出土の国宝土偶「縄文のビーナス」「仮面の女神」の2体をデザインしたアートを完成させた。

学年全体で取り組む「茅野市の魅力向上プロジェクト」の一環。21のテーマ別に活動しており、「エコキャップアートチーム」には生徒6人が参加。幅広い世代が楽しめるイベントを企画する中で、参加しやすいエコキャップアートを思い立った。デザインは地元ならではの縄文から発想。市の縄文のブランドマークに決め、規定に沿った比率で2体を表した。10月下旬に市役所など3カ所にキャップ回収用の箱を設置。材料購入の資金に充てるため回収にアルミ缶も集めた。

この日黒のキャップが目立つよう白いテープを全面に貼って穴を開けた段ボールにキャップをはめていく作業をした。生徒たちはサークル活動などで来館した人に声を掛けるなどして協力を依頼。約300～400個のキャップを使って縦1・5メートル、横2メートルのアートを完成させると、「すごいと感嘆や拍手が上がった」。

グループリーダーの諏訪里さんは「いろんな人とおしゃべりしながらできて楽しかった」。山本泰央さんは「短期間でここまでやるのは大変だったけど、完成して一安心」とほっとした表情を浮かべた。

作品は10～17日ごろに中央公民館に飾り、その後、同校に展示する予定。（小島口晋二）

しめ縄新調 新年迎える準備

手長神社（諏訪市湖南白山）の一之鳥居に7日、しめ縄が飾り付けられた。上諏訪氏子青年会が行う奉仕活動の一環で、同青年会と上諏訪住心会のメンバー約30人が作業。新たなしめ縄を奉納し、新年を迎える準備を整えた。

境内の大神楽とともに毎年この時期に行う作業。氏子らは協力して縄をより合わせ、

手長神社一之鳥居